

## 香港におけるローカルな家事労働者と移住家事労働者

大橋 史恵 (武蔵大学)

香港の家事労働者は、中国系のローカルな家事労働者と、非中国系の移住家事労働者の二者に大きく分けられる。その就労状況は互いに異なっている。ローカルな家事労働者が主に通いで働くのに対して、移住家事労働者は雇い主の家に住み込むことを義務づけられている。ローカルな家事労働者は香港居民であり、多くは香港政府の再就業支援プログラムを受けて働きはじめた。これに対して移住家事労働者は香港社会におけるシティズンシップから排除されている——7年の「通常居住」によって取得できる永久居民のステータスを、移住家事労働者は獲得することができないとされるためである。移住家事労働者らはこの状況が「香港特別行政区基本法」に反すると訴えてきた。この訴えは香港社会に大きな議論を巻き起こし、2013年、終審法院において棄却された。

しかし、ローカルな家事労働者と移住家事労働者は、ともに香港の中流層以上の家庭に直接雇用されており、同じように香港社会の労働力再生産を支えている。移住家事労働者たちは出身国や政治団体によってさまざまに異なるユニオンを結成しつつも、ローカルな家事労働者や他国の家事労働者のユニオンとも利害関心を共有している。本報告では、シティズンシップをめぐる政治的亀裂のなか、香港で働く家事労働者たちがいかに連帯してきたのかを考察していきたい。